



さくら 2009 春

発行
社会福祉法人 東桜会
第 23 号
〒420-0962
静岡県葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

事務室への来訪者

麻機園園長 秋山 通

私は毎日勤務時間の殆どを麻機園の事務室のデスクで過しています。私以外に事務室にデスクを置く職員は、この四月から事務長、事務員、生活相談員 3 名、栄養士の総勢 7 名になりました。

麻機園の事務室では、開園以来初代園長のお考えが引き継がれ、事務室に職員が在室するときには、何時でも入口のドアは開いています。ですから、職員の出入りは勿論、入所者やショートステイのご利用者、デイサービスのご利用者なども時々お見えになり、誰でも気軽に事務室に入れるようにしています。洗濯の済んだタオルを職員と連れ立って届けてくださるデイサービスのご利用者や、介護職員の用事に付き添って訪れる入所者、或いはご自身の要望を直接お届けくださるご利用者など、ほとんど毎日どなたかがお見えになります。

「鉛筆とノートを下さい」「歯ブラシがほしい」「メイク落としを買ってほしい」「口紅が残りそうだ」等々、それぞれの利用者が様々な用事でお見えになります。

数年前に退所されましたが、事務室の入口にお見えになっただけでどのような用件なのかおよそ想像できるような“常連”のご利用者もいらっしゃいました。男性のそのご利用者は、毎日日記を書くことが日課で、そのための青色のボールペンと大学ノート、書いた日記の内容を強調したり書き直したりするときの赤色ボールペンをよくお使いになり、常に数本のボールペンをお持ちでしたが、残り少なくなると事務室入口に、必要な物と必要な理由を書いたお手紙を持って相談員を尋ねて来ました。対応する相談員に丁寧にお辞儀をして、少し不自由な言葉でゆっくりと説明し、購入をお願いするのが常でした。

事務を執ったり、外来者の対応をする日常業務の中で、ご利用者様が事務室を気軽に訪れて頂けることは、私たち事務室の空気が和む一瞬でもあり、「お年寄りと一緒に居るんだな」と感じる時でもあります。これからも麻機園の事務室入口は、何時でも開いて皆様をお待ちしています。

平成 21 年 4 月

『 新人職員紹介 』



1 月から勤務している看護師の佐藤です。『その人がその人らしく生きる』事が出来る為の、看護（介護）を提供する事ができたらな、と思っています。その為にも自分の持つ知識を深めると共に、視野を広げて行けるよう学んで行きたいと思ひます。

麻機園 看護師 佐藤由美



国立てんかん神経医療センターを昨年定年退職後、今年 3 月より麻機園でお世話になっております。疾患の治療を目的とする場から、穏やかな生活が送れるよう日常生活を援助していく介護の場へと、皆様にご指導頂きながら、視点の切り替え中です。至らぬ点、多々あるかと思ひますが、どうぞよろしくお願い致します。

麻機園 看護師 千石麗子



今年 3 月に国立てんかん医療センターを退職し、4 月より麻機園でお世話になる事になりました。病院ではない生活に戸惑うばかりですが、心を新たに一年生で頑張りたいと思ひます。しばらくは皆様にご迷惑のかかる事があると思ひますが、一歩ずつ確実に歩みたいと思ひますのでよろしくお願い致します。

麻機園 看護師 鷲巣牧子



皆様と共に、一日一日を大切に、
楽しく過ごして参りたいと思
います。よろしくお願いいたします。
麻機園 寮母 池ヶ谷倫世



みなさんから信頼して頂けるよ
うに精一杯頑張っていきます。
よろしくお願いいたします。
麻機園 寮母 望月佑哉

*『 新人職員紹介 』は夏号に続きます。

『 健康に生きる 』

事務長 望月恵子

ちょうど1年前、私に最大の転機が訪れた。平成19年8月の1回目脳腫瘍の手術に続き、半年後の平成19年2月に再発が宣告された。今振り返ってみても、その時は何を考えていたか思い出せないが、毎月最低1回の通院と毎日の服薬で何とか元気(?)に生きている。

人は辛い事にたくさん出会うと、ひとに優しく接する事ができ、自分の事だけ考えるのではなく、皆のお陰で生きている 生かされている と思えば毎日が平和で尊いものであるでしょう。

60歳を迎えた私が、本当にありがたいとつくづく感じている今日この頃である。

開園記念日

4月1日、麻機園が開園して21年が経過しました。園庭の桜も満開になり新年度がスタートします。さくらの広場では、開園記念の集いが行われました。4月から新たにスタッフの一員になった新人職員の自己紹介、2人加わった副寮母長からの挨拶、理事長のお話の後には、ビールとジュースで乾杯です。そして皆さんが一番楽しみにしていた『寿司バイキング』。マグロ・エビ・玉子・穴子・・・と、次々と注文し、お腹いっぱい食べられたようです。寿司を握ってくれたキャラバン隊の方に感謝を告げる方、久々のビールに上機嫌の方、皆さんのとても良い笑顔がみられました。



寮母 村松翔一

～ お花見 愛宕霊園にて ～



『まだ寒いけど、外の空気を吸うと元気が出るよ。』お花見に行く途中、ある入居者の車内での一言。普段外出の機会の少ない入所者にとって、外出は最高のリフレッシュの時です。愛宕霊園の桜をみて、桜も笑顔も満開でした。

毎年、当たり前のように咲く桜。しかし、今か今かと待ち望み毎年私達に元気をくれます。 副寮母長 坂本晃



私は、小学校3年生から理由あって祖父母に育てられた。私の祖母はとても優しく厳しい人だった。親に育てられていない子供だからと言われないようにと、必要以上に厳しかったと思う。『笑顔を忘れない』、『返事をする』、『嘘をつかない』、『人に感謝する』。そして何より『ありがとう』の言葉の大切さを教えてくれた。『ありがとう』は、自分の気持ちが素直でないと言えない。ありがとうは、人の気持ち、自分を優しくする。『いつも言っていた。当たり前の事をして』、『ありがとう』。ありがとうな。としわくちやの顔でいつも笑っていた。心が温かくなる感じがした。

私が働く麻機園は、この『ありがとう』がいっぱいだ。どんな些細な事にも『ありがとう』の言葉を交わしている。嬉しいのはお世話をしている利用者からいただく『ありがとう』だ。仕事だから当たり前なのに、いつも『ありがとう』の言葉をくださる。疲れなど吹っ飛んでしまつくらい、嬉しく心にしみる。まるで祖母に言われているようだ。

今考えると、子供の頃の私は『ありがとう』が言えない子供だったように思う。だから祖母は私に『ありがとう』。ありがとうと教えていたのだと思う。その祖母も4年前に亡くなった。自分の子供の名前を忘れても、私の名前だけはいつも呼んでいたと言った。

私はこれからも『ありがとう』の言葉の大切さを教えてくれた祖母に感謝し、『ありがとう』の言葉を自分、言ってもらえる自分になれるよう精進して行こうと思う。『ありがとう』の言葉を大切にしながら・・・

池野ひとみ

デイサービスを無料で1日体験できます。ご利用希望の方は209-2619までお電話ください。